

夢のかけはし

今日も子どもたちの元気な姿を見ることができました。いつ見ても、本当に嬉しいものです。

私が子どもたちの登校を見守るようになったのは、今から約60年前前。鹿屋小学校の子ども育成会の役員をしていた当時、小学校から依頼されたのがきっかけです。子どもたちが交通事故に遭わないように、自分にできることはやってみようと思ったのです。

以来、毎月1日・10日・20日の3回と、春・秋の全国交通安全運動期間中は交差点に立ち続けています。はじめは北田交差点に立っていました。バスセンター(当時)が大手町に移転してからは、大手町交差点に立っています。

このほか、スクールガードリーダーとして、高須小学校・野里小学校の登下校の交通誘導も行っています。今でも青パトにも乗るんですよ。とにかく子どもたちを顔を見てもらおうと、小学校で自己紹介をする時はマジックを交えて行います。通学路で普通に声をかけても不審者に思われる時代。「マジックのおじちゃん」として覚えてもらい、子どもたちに安心してもらうように心掛けています。

子どもたちの安全が使命。しかし、過去にヒヤツとしたことがあります。横断歩道で誘導している途中、渡りかけた子どもが「忘れ物をした」と言って急に向きを変えて戻った時でした。これは危ない

通学路で子どもたちを見守る

市来 秋美 さん

と思い、誘導方法を考え直ししました。横断歩道の歩行者を背にして、車の方を向いて誘導するようにしました。背中子どもたちを見守るのが大事だと、長年、活動の現場にいてこそ気付けたのです。鹿屋警察署に報告したところ、署から学校を通じて、すぐに関係者に指示されたと聞いています。

高齢の身ですが、立つことは足を鍛えることになり、健康にもいいこと。また、「おじちゃん、ありがとう」と子どもたちに声をかけられると、逆に力をもらったような気がして元気になります。

これからも、足腰が丈夫なうち子どもたちを見守りたいと思います。



(右) 進入してくる車の方を向いて背中子どもを見守る
(左) 3月、長年の活動に対し鹿屋警察署から感謝状が贈られた



子どもたちの元気な声が力に

昭和8年朝日町生まれ。平成14年まで大手町で靴屋を営む。これまで鹿屋市少年ボランティア連絡協議会長、鹿屋市防犯協会会長、鹿屋市交通安全協会鹿屋中央支部長等を歴任。(84歳)



5月15日(火)9時5分から FMかのやに市来 秋美 さんが出演予定